

「持続可能な開発とジェンダー」に関するタイ女性 NGO の実態

— アンペイド・ワークを射程に入れて —

松葉口 玲子*・中須 正**

(2003年10月31日受理)

第1章 はじめに

2002年8月26日から9月4日に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)」(ヨハネスブルグ・サミット)が過ぎ、現在、地域、国、世界レベルでの将来戦略をたてる時期にきている。特筆すべきことは、日本のNGOからの提起が契機となり、2005年から10年間で「国連・持続可能な開発のための教育の10年」とすることが国連で採択されたことであろう。これを受け、日本においても「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)が設立され、これまで環境・開発・人権(ジェンダー含む)・平和等の課題に取り組んできたNGO・NPOや個人のネットワーク化が進んでいる。しかし、上記WSSDが、そもそも10年前の1992年に開催された「国連環境開発会議(UNCED)」(地球サミット)後の進展を検証するために開催されたことを鑑みれば、UNCEDでの画期的な成果である「アジェンダ21」の包括的実施は未だであることが再確認されたといわざるをえない。

振りかえればUNCEDは、それまで別枠で議論されてきた「環境」「開発」「ジェンダー」が交わったという点で、画期的なものであった。たとえば「アジェンダ21」第24章では、持続可能かつ公平な開発と人々の生活の持続性を推進するためには、女性の環境保全の知識、知恵を生かすこと、そのためには環境政策、開発政策に女性の貢献と利益を確保するためのジェンダーの平等と公正が必要であることが明記された。その背景には、WEDO(女性環境開発機構)などの女性団体の努力があったことは忘れてはなるまい。その他、「環境と開発」および「ジェンダー」が、国際舞台においていかに結びついていったかという問題に関して、1995年の第4回世界女性会議(北京)の時点までについては松葉口(1998)がすでに明らかにした。

こうした「持続可能な開発とジェンダー」に関する議論と微妙に交錯しながら、無償労働すなわちアンペイド・ワークの可視化に関する国際的議論も同時並行で展開されてきた。UNDP(United Nations Development Programme: 国連開発計画)の1995年版人間開発報告書では、「女性は男性より長時間働く」にもかかわらず、「女性の仕事の大半が無報酬で、視野に入れられず、過小評価されている」と、端的に述べられているが、すでに1993年、国連事務局の統計部は、国民勘定体系(SNA)のサテライト勘定としてアンペイド・ワークの一部を提起している。しかしアンペイド・ワークそのものをいかに評価するかについては、旧経済企画庁の

* 岩手大学教育学部

** チュラロンコン大学政治学部社会開発研究所(東京都立大学大学院社会科学研究所社会学専攻博士課程)

金銭換算に見られるように容易ではなく、近年では、評価ツールとして、地域通貨への期待も高まっている。

これらの動向は現在、国連をはじめとする国際舞台においては、「ジェンダーの主流化」として大きなうねりとなっており、その原動力となっているのが周知のとおり NGO 活動である（望月ほか 2003）。

筆者らは、「持続可能な開発とジェンダー」について考察する際には、「世界システム・パースペクティブから見たアンペイド・ワーク」（ミースほか 1995, 古田 2000）の問題を位置付けることが必要であり、それはまた「オルタナティブな経済的枠組み」（プライドッチほか 1999）の開発を必要とするものでもあると考えている。

こうした視点にたち、本研究の目的は、「持続可能な開発のジェンダー化」にむけて、まずは女性 NGO の把握を、タイを事例に行うことである。もとより日本同様にタイにおいても NGO 全体像の把握は容易ではなく、ましてや日本においてはタイの NGO 全般に関する情報は管見の限り見られない。したがって本報告においては、データ提供そのものを目的とする。

第2章 「持続可能な開発とジェンダー」におけるアンペイド・ワークへの着目の必要性

はじめに、「持続可能な開発」における「ジェンダー」視点の必要性に関する議論の概略を示したい。現在、「開発」において「ジェンダー」概念は無視できないものとなっている。その理由の第一に、女性は男性と比較すると、より貧困に陥りやすい構造であること、すなわち「貧困の女性化」が世界的に生じていることがあげられる。したがって、構造的な女性の貧困を解決する対策として、ジェンダー平等を目指した開発を行う必要があるというものである。第二に、従来の開発における「世帯」概念が、先進国によるステレオタイプであることである。女性の家計における貢献は非常に大きいにもかかわらず、その貢献が無視されてきたという事実である。したがって、「アンペイド・ワーク」への視点が欠かせないのである。

たとえば鳥飼(2002:128-129)は、タイにおける雇用形態の男女別格差について、同じ「雇用者」であっても、とりわけ地方の女性については、家族無償労働(37.7%)が民間雇用(31.1%)よりも多く占めていることを明らかにしている。すなわち、たとえ「雇用」という形態を経ても、ジェンダーの視点で見れば、「女性」と「アンペイド・ワーク」は親和的なのである。

中田(1998)は、「ジェンダーと開発」の視点から、タイにおけるフィールドワークをもとに、女性支援活動に対する評価基準を以下のように提案している。

評価基準としては、「収入の向上」「ネットワークの構築」「自立的な経済活動」の3つを、以下のように、〈実際のジェンダーニーズ〉と〈戦略的ジェンダーニーズ〉の2つに分けて設けているのが、その特徴である。

●評価項目具体的内容

〈実際のジェンダーニーズ〉

①収入の向上、②ネットワークの構築—女性グループの組織化

〈戦略的ジェンダーニーズ〉

①収入の向上—最低賃金を満たす、②ネットワークの広がり—より広い地域ネットワークの構築、③ネットワークの深化—性別を超えたネットワークの構築、④女性たちの自立的な経済活動—他組織への依存性を弱める

ここで〈実際のジェンダーニーズ〉とは、現在、一般的に女性の役割として認識されている母・妻という役割から認識されるニーズである。医療や母子保健などは、女性の母役割、または家族を守る役割から生じるニーズである。〈戦略的ジェンダーニーズ〉とは、女性であるがゆえに満たすことが困難となるニーズである。例えば、女性は、通常、土地などに関する権利を持たないために、銀行から融資を受けることが困難である。

この2つのニーズを分類することによって、何が女性の自立的な経済活動にとって必要なことなのかを明確に把握することが可能となる（中田 1998）。

また、実際のプロジェクトの企画の際、計画者や政策立案者は、アンペイド・ワークが多くの女性（男性も増加しているが）の時間や機動性に与える影響についても理解する必要がある。

江藤（2002：194）は、タイ農村部での事例調査の結果、原（1999）を引用しながら、「タイでは、これまでに数多くの農村女性をターゲットにした職業訓練や、所得創出のためのプログラムが実施されてきた。とくに『女性向け』と銘打ったプロジェクトは、女性の労働意欲を満たす手段や機会をダイレクトに提供した。そして、『勤勉な』女性の労働の結果、世帯だけでなく村（地域）全体の収入を増やすことに貢献してきた。これらが女性に過重の負担をもたらすだけに終わってしまわないかどうか、貧困の解消という結果以上のものを社会にもたらすかどうかは、草の根的なグループが組織できるかどうか、リーダーの有無、そして、女性たちの活動が持続性や新たな発展の可能性をもつか否かなどにかかっているようである。」としたうえで、「女性の働き手、稼ぎ手としての役割が重要視される地域においては、男性向けに家事、育児を主体的にこなすための研修を行うことが、ジェンダーに敏感な施策として効果的」だと指摘している。

それを象徴するのが以下の事例である。

酪農振興地域でようやく実現した女性向け研修に、ある特定の地区の女性たちがそろって参加しなかった。その理由は、研修の当日、たまたま畜産局の獣医などによる巡回とかち合ってしまう、女性たちは獣医たちに昼食を饗応しなくてはならなかったためという。巡回がある地域の女性たちが昼食の準備をするのが慣例だったのである。つまり、個々の世帯では、夫妻がともに食事の準備や片付け、子どもの世話をすることもまれではないのだが、集団行事のなかでは、「食事の準備は女性がするもの」という性別役割規範が根強く守られていたのである。江藤は、この事例をもとに、「女性に過重の負担が生じないようにするためにも、とくに、男性が家事や育児を担うための研修が必要であると思われた」と指摘しており、このことは日本の現状にも通低して重要である。

第3章 タイにおける「持続可能な開発とジェンダー」に関する NGO の把握

第1節 タイにおける NGO の概要

タイにおける NGO ダイレクトリー（Wipaphan Korkeatkachorn & Suntaree 1997）から、「環境」および「女性」のカテゴリーをピックアップした。ちなみにこのダイレクトリーの全カテゴリーを団体数の多い順に並べてみると、開発事業の調整支援 94（20.2%）、天然資源・環境（以下、「環境 NGO」と略す）90（19.4%）、子ども・青年 84（18.1%）、エイズ 76（16.3%）、農業 64（13.8%）、公衆衛生・消費者保護 45（9.7%）、女性（以下、「女性 NGO」と略す）43（9.2%）、山岳民族 26（5.6%）、宗教と開発 26（5.6%）、スラム 23（4.9%）、人権 18（3.9%）、

メディア 17 (3.7%), 労働 7 (1.5%), 障害者 5 (1.1%) となっており, これがすなわちタイにおける NGO の活動傾向を表しているといえる。

なお, 地域の分類については, 以下の 5 つに分類される。

- ・バンコクおよびその周辺 (Bangkok and Vicinity)
- ・中央部=北部下方地域と中央部 (The Lower North and Central Region: Ang Thong, Chachoengsao, Chai Nat, Kanchanaburi, Nakhon Sawan, Phichit, Phitsanulok, Suphan Buri, Uthai Thani)
- ・北部 (Chiang Mai, Chiang Rai, Lampang, Lamphun, Mae Hoe Son, Nan, Phayao, Phrae)
- ・東北部 (Buri Ram, Chaiyaphum, Khon Kaen, Maha Sarakham, Nakhon Ratchasima, Nong Khai, Roi Et, Sakon Nakhon, Si Sa Ket, Surin, Ubon Ratchathani, Udon Thani, Yasothon)
- ・南部 (Chumphon, Nakhon Si Thammarat, Narathiwat, Pattani, Phangnga, Phatthalung, Phuket, Satun, Songkhla, Surat Thani, Trang)

ダイレクトリー全体は, 465 団体。うち, バンコク周辺が 180, 中央部が 21, 北部が 112, 東北部が 106, 南部が 46 団体となっている。そのうち「環境 NGO」は, 全体で 90 団体, バンコク周辺で 28 (31.1%), 中央部で 3 (0.3%), 北部で 24 (26.6%), 東北部で 14 (15.5%), 南部で 21 団体 (23.3%) であった。また, 「女性 NGO」は, 全体で 43 団体, バンコク周辺で 12 (27.3%), 中央部では 0 (0%), 北部で 17 (41.0%), 東北部で 13 (29.5%), 南部では 1 団体 (0.2%) のみであった。すなわち, 北部 (チェンマイ, チェンライ等) と東北部 (コンケン等) に多く, とりわけ全体の約 40% が北部に集中しているのが現状である。

以上, 「環境 NGO」については, 地域的なばらつきは都市の規模と比例しているが, 地域別割合では, 南部と北部に多くの割合で存在している結果となった。これらの地域で問題がよく報じられている現実 (中須 2003) とほぼ比例している。

女性 NGO については, 地域的なばらつきは, 北部に集中しており, 地域別の割合では, 北部と東北部に比較的多くの団体が存在した。

以上の結果は, 女性や環境の問題が北部に数多く存在する傾向を示しているといえよう。

第 2 節 タイにおける女性 NGO の概要

08. Anjaree Group (バンコク)

目的:

1. 女性の権利, 選択に関して自信をつけさせ, 人生を自由に生きることを奨励する。
2. レズビアンに関する偏見を解消し, 正しい考えかたを普及させる。
3. レズビアンの権利を守る。

活動:

1. 隔月のニュースレターの発行。
2. 経験を共有するためのメンバーどうしの会議を組織。

019. Association for the Promotion of the Status of Women (バンコク)

目的:

1. 女性問題における様々な側面を研究する。
2. 女性が社会において正義と平等を得るよう促進と支援。

3. 知的な女性が職業を得るためのすべての可能性を支援し、
4. 経済社会開発に女性が参加することを促進する。

活動：

1. 問題をもった女性や子どものための緊急のシェルターの設置
2. 女性の教育、職業訓練、ゲストハウス、そしてヘルスクラブのためのセンターの立ち上げ。
3. 開発におけるジェンダーに関する研究機関の設立。

31. Catholic Migration Commission/Women's Desk (バンコク)

目的：

1. 問題に直面している女性移民労働者への支援の提供
2. 海外での労働を希望する女性への支援
3. 働く女性が、より多くの知識をえるための支援
4. 基礎的職業訓練の促進

活動：

1. 村の指導者やボランティアをトレーニングするためのグループを組織、
2. 問題の削減や解消への協力を求めて働く女性を支援するための組織的ネットワークの創設

053. Emergency Home (バンコク)

目的：

1. 緊急な問題に直面している女性や子どもへの支援
2. 政府機関やプライベートセクターによって提供されている社会福祉サービスへのアクセスができるように支援する。

活動：

1. シェルター、一日三回の食事、衣類、そして最低限必要な物資の提供
2. 緊急な問題解決のためおん心理学者やソーシャルワーカーからのカウンセリングや支援の提供
3. 必要性への支援を提供する関係機関とのコネクションにおける仲介者としての活動

054. Empower Foundation (バンコク)

目的：

1. セックスワーカーへのコンサルティングと有意な情報の提供
2. 彼女らへ基礎教育を提供
3. 社会福祉の提供

活動：

1. カウンセリングの提供
2. ノンフォーマル教育の促進、そして
3. 職業訓練の提供

073. Foundation for Women (バンコク)

目的：

1. 社会において阻害され、恵まれていない女性への支援の提供
2. 女性への教育の提供と適切な教育メディアの創設
3. 女性の権利の支援

活動：

1. 女性情報ネットワークプロジェクト、そして
2. 高等教育レベルでの若者の間での女性問題に関する新しい価値観の促進のためのキャンペーン

081. Friends of Women Foundation (バンコク)

目的：

1. 女性と男性は、自然状態で平等であるという信条、価値、および思想を普及させる。
2. 経済的、社会的、政治的、文化的領域における女性と男性の間の平等を促進する。
3. 女性と男性の間の法的な平等を促進する。

活動：

1. 虐待された女性への社会的、法的カウンセリングの提供
2. 教育の提供やトレーニングやセミナーの組織化
3. 権利を犯された女性を支援する個人、政府、NGOのネットワークの確立

082. Gender and Development Research Institute, Association for the Promotion of the Status of Women (バンコク)

目的：

1. 社会での女性と男性間の平等を導く、女性の地位の向上に関する政策研究の実行
2. 女性の政治参加の促進を拡大することによって民主的な開発を促進する、そして
3. すべてのレベルにおける政策決定における女性の平等な参加を支持、促進する。

活動：

1. 女性の役割に関する態度と認識を変化させるための活動
2. 主流の政治や政策における女性問題のためのロビー活動、そして
3. 女性の能力の強化

084. Good Shepherd Sisters (バンコク)

目的：

恵まれない、周辺化された人々、特に女性への福音の普及と直接的な支援の提供。

活動

1. 貧しい人々への支援の提供
2. 教育と職業訓練の提供、そして
3. さらなる教育への奨学金の提供

089. Girl Guides Association of Thailand (バンコク)

目的：

1. 女性をよい市民に育て、その仲間を支援し、そしてみんなで幸せになる。
2. 女性に経済的に自立するための教育を提供する。
3. タイ国内、そして他の国の女性の中で、良好なフレンドシップを促進する。

活動：

1. 女性のガイドの活動に関する教師のトレーニング。
2. 倫理、道徳、そしてリーダーシップに関する女子学生への指導
3. 地方の女性に職業訓練を提供する。

資金源：国際機関（具体的な名前はない）、教育省、そして社会福祉局

112. National Council of Women of Thailand under the Royal Patronage of H. M. (バンコク)

目的：

1. タイ国と海外における女性の組織間での知識の獲得とアイデアの交換
2. 女性の生活状態と地位の向上, そして能力の強化

活動：

1. メンバー組織との調整
2. カウンシルの目的と一致する活動をしている組織へのアドバイスの提供
3. 重要な機会に関する活動の組織化

資金源：寄付, メンバー基金, 社会福祉局, 厚生省

127. Rahab Beauty Shop (バンコク)

目的：

セックス産業で働く女性がオルタナティブな職業を見つけることの奨励, 支援, そして援助

活動：

1. 例えばビューティシャンのような新しい職業のための, 職業訓練の組織化や器具や装置の提供。
2. セックス産業で働く女性へのオルタナティブな職業へのキャンペーン。

資金源：

海外機関, キリスト教団体

215. Doi Saket Widow's Group (北部)

目的：

1. AIDS 患者が彼らの権利のために戦う勇気づけ
2. HIV 保持者を集めて, 他の人々に知識を提供する, そして
3. HIV 保持者への収入創出を促進する

活動：

1. メンバーの効果的な収入向上の促進, そして
2. コミュニティへ知識を伝える講師やボランティアの提供

217. Empower (北部)

目的：

1. セックス産業で働く女性をエンパワーし, 意思決定過程を促進する
2. セックス産業で働く女性への基礎教育と基礎的職業教育の提供
3. セックスワーカーに対して, 彼(女)らに有意な情報へのより容易なアクセスの機会を提供

活動：

様々な活動における参加者に対する積極的な意思決定を導く自己開発過程の創出

228. Girl Guides Association of Thailand (北部)

目的：

1. 少女をよい市民になるよう, そして他の人々への利益となるために働くよう訓練する
2. 少女自身が経済的, 社会的, そして遺伝的に成長できるよう教育を提供する
3. タイの若者, そしてタイと外国の若者の間の良好なフレンドシップを促進する。

活動：

1. 学校組織の内外での少女と若い女性のトレーニング
2. 国際的な若者の交流キャンプの組織化

資金源：CIDA

233. Hotline Center Foundation (HCF), Chiang Mai (北部)

目的：

1. 心理的, 身体的, そして生活上の問題に関するカウンセリングの提供
2. 双方向の文化的コミュニケーションシステムの開発, そして
3. 女性問題に関する研究の促進

活動：

1. 電話, 手紙, そして個人的な直接面接によるカウンセリングの提供
2. 学校やコミュニティへの訪問の移動ホットラインの運営, そして
3. HIV/AIDS に関するカウンセリングの提供

247. Northern Women Development Foundation (北部)

目的：

1. 法的そして家族問題に関する女性に対するカウンセリング, アドバイス, そして支援を行う。
2. 女性の生まれた土地への愛着, そして彼女らの生活への選択可能性への理解を促進, そして
3. 経済的な状況のよい女性と, 同状況の悪い女性とのつながりをつくり, 前者による後者への援助を期待する。

活動：

1. AIDS に関する知識の普及
2. 法的な支援の提供
3. 職業訓練の提供

258. Project for Women and Youth in Chiang Mai (北部)

目的：

1. 家族, そして自己開発における女性への支援
2. 経済, 政治, そして自治に関する問題への地方の女性の知識や意識の向上
3. 子どもと若者の間に土地への愛着を促進する。

活動：

1. 職業の促進, 性的搾取の停止, そして職業グループの組織化
2. モンクと農村開発に関するトレーニングの提供

263. Thai-Worldview Foundation (北部)

目的：

1. 環境を守るため, また, ドラッグ, AIDS, さらにはコミュニティ開発の問題への解決を求めるため, 様々なキャンペーン, メディアの利用と促進
2. 特に若者のグループ, 女性, そして不利な立場の人々と活動

活動：

1. コミュニティに関わるメディアによるキャンペーンプロジェクト

2. 開発トレーニングプロジェクトのためのコミュニケーション, そして
3. 社会と繋がりのあるマスメディアのためのキャンペーンプロジェクト

269. Women Against AIDS (北部)

目的:

1. キャンペーン, そして AIDS に関する支援の提供の実行,
2. 職業推進, そしてトレーニングプロジェクトの実行

活動:

1. ゲームやユースキャンプを通じて AIDS 防止に関するキャンペーンを実行
2. 収入生産活動と職業訓練セッションの組織化, そして
3. HIV 保有者の他センターへの支援

270. Women's Studies Center (北部)

目的:

1. ケーススタディと同様にコースワークにおける女性研究の促進
2. 女性問題に関する基礎的情報の提供, そして
3. 女性問題に関するアカデミックな企画を交換しあう活動の普及と推進

活動:

1. 女性研究に関するコースの組織
2. 女性問題に関する研究の実行
3. 北部女性情報センターの設置

276. Association for Comunity and Ecology Development (ACED) (北部)

目的:

1. 天然資源と環境管理における PO (people's organization) やコミュニティの活動を強化する。
2. 権利を守ることと同様に女性や子どもへの支援を提供する。
3. 持続可能な経済開発と自立を支援する。

活動:

1. コック, そしてイン川流域における回復と開発プロジェクト
2. メコン川流域における生物多様性保護に関する研究, そして
3. コミュニティ開発とエコロジーのための北部地域トレーニングセンターの運営

280. Development and Education Programme for Daughters and Communities Center (北部)

目的:

1. 女性が、売春に関わるあらゆる形態に取りこまれないようにする。
2. 女性がより高い教育, 知識, そして能力を得るよう奨励する。
3. より適切でオルタナティブな職業を見つけるための職業訓練のための機会の提供。

活動:

1. 子どもの教育におけるリスクをモニターする。
2. 職業訓練のための教育と奨学金を支援する。
3. 子どもと若者のキャンプを組織化する。
4. AIDS, 子どもの売春, そして女性と子どもの権利問題に関するキャンペーンを行う。

282. Highland People's Education and Development Foundation (北部)

目的:

1. 山岳民族の開発のために働いている個人やコミュニティ組織を支援, 促進する。
2. 山岳民族がコミュニティ, 地方, そして国の開発に参加できるよう教育や学習過程を促進する。
3. NGO と政府機関の協力と調整を促進する。

活動:

1. 彼女たちを力づける女性グループのためのミーティングを組織化する。
2. 彼女たちのニーズによって女性グループのためのトレーニングセッションとフィールドトリップを組織化する。

286. Northern Women Development Foundation (北部)

目的:

1. 女性の家族や精神的問題に関する法的, 一般的カウンセリングの提供
2. 女性自身の生活への理解の奨励
3. 女性の権利や義務に関する意識の喚起

活動:

1. 法的支援の提供
2. トレーニングセッション, 情報の普及, そして教育の組織化
3. 職業訓練の組織化

288. Project for Hilltribe Women and Youth Network (北部)

目的:

1. 山岳民族がコミュニティ開発に参加するのを奨励する
2. 山岳民族女性ネットワークを開発する, そして
3. 山岳民族の女性と若者が彼らとコミュニティにとって何が適切かについて学ぶことを可能にさせる。

活動:

1. 女性グループによる活動の促進
2. 付加的な職業の促進と支援, そして
3. 山岳民族の子どもと若者の学習過程の促進

291. Community Forest Project, Lampang Province (北部)

目的:

1. ワン川流域の森林管理を正しく, 持続的にする人々の組織力を強める
2. 環境に関する子ども, 若者, そして人々の意識を高める
3. 組織的な手法で環境保護における女性の役割を強める

活動:

—記載なし—

297. Lamphun Women and Youth Development

目的

1. 女性や若者が, 経済, 社会, そして政治に関する情報を得るための支援
2. 女性や若者の組織を刺激する

3. 問題について考え、行動し、議論する、環境に配慮する、そして、問題解決に参加する PO の能力向上

活動：

1. 農業開発の促進と支援
2. 奨学金や住居などの提供による教育開発のための促進と支援
3. 自然災害時における人道支援の提供

309. Phayao Women and Children Development Association

目的：

1. バヤオ地方における女性と子どもの生活の質の向上
2. コミュニティにおける問題解決のための地方組織の能力開発
3. 貴重な伝統的文化の促進と保護

活動：

1. 農業、ハンディクラフト、組合、そしてコミュニティショップなどの収入向上活動
2. 衛生と教育の支援

332. Foundation for Thai Rural Children (東北部)

目的：

1. 貧しい子どもと PO を支援する。
2. 子どもの教育を支援する。
3. 公共利益のために他の組織と調整、協力する。

活動：

1. 若い地方の子どもたちの開発プロジェクト
2. 奨学金プロジェクト
3. 人材開発プロジェクト
4. Girl's home (ガールズホーム) プロジェクト
5. 持続可能な生活のための農業プロジェクト

334. Handicraft Center for Northeastern Women's Development (東北部)

目的：

1. 東北部の伝統的な織物の保存と普及
2. 農村の女性のための収入向上活動の開発
3. 農村開発における女性の役割を高め、彼女らの参加を奨励する。

活動：

1. 天然染料の織物、そして
2. 手織りの事業経営

335. Hotline Center Foundation, Khon Kaen (東北部)

目的：

1. 精神、身体、そして人生における問題に関するカウンセリングの提供。
2. 双方向のコミュニケーションに向けた文化的、構造的コミュニケーションシステムの開発
3. 女性問題に関する教育と研究を促進

活動：

1. カウンセリングの提供
2. 地方の学校やコミュニティに移動ホットラインを提供する。

344. Praeapan (Fabric) Group (東北部)

目的:

1. 女性のための将来的収入向上に益する職業の開発
2. 女性の役割と村間のネットワークの開発, そして
3. 東北部の伝統的な織物に関する情報の保存と普及

活動:

1. 伝統的織物業のようなコミュニティ事業
2. コミュニティ福利
3. コミュニティ開発の促進

373. Center of Child Youth and Women Development (東北部)

目的:

1. 情報へのアクセス, 特定技術開発, そして高等教育など人々の生活の質の向上のための機会を促進する。
2. 移民と子どもの労働に関する問題の知識と理解を促進する, そしてそれらの問題を解決するコミュニティの努力を支持する。

活動:

1. 農村の子どもの生活の質開発プロジェクト
2. 労働年齢に達しない子どものための指導プロジェクト
3. 「反 AIDS 村」プロジェクト

375. Grassroots Integrated Development Foundation (東北部)

活動:

1. 彼らの問題解決, 権利の保護, そして東北部における様々なネットワーク間の調整に関する PO やネットワーク活動を支援する。
2. 開発に関する理解を共有し, 政府機関や PO を支援する。
3. 家族内におけるジェンダー開発を奨励する。

376. Local Weaving Development Project-Appropriate: Technology Association (東北部)

目的

1. 一般の人々からの認識を得るよう天然染料技術による地方織物の促進
2. 東北部女性の目に見える収入向上活動としての地方織物の促進
3. 農村女性のマネジメント能力の強化

活動

1. 天然染料技術の研究開発
2. 副業としての織物の促進
3. 農村女性の能力開発

381. Suwannaphum Human Resources Development Foundation (東北部)

目的:

1. 教育機会を持たない子どもの支援

2. 様々な機関との調整, 協力
3. 有機農業と環境保護の促進

活動:

1. 統合農業 (Integrated agriculture) の推進
2. AIDS 防止キャンペーン
3. 女性の仕事の推進

386. Community Forest Project (東北部)

目的:

1. コミュニティの環境活動を支援する
2. コミュニティフォレスト (コミュニティによる森林管理) 保全のコミュニティ活動を支援する

目的:

1. 農業活動とアグロフォレスティ
2. コミュニティにおける女性の技術と役割の促進
3. 環境保全における子どもの技術を促進

392. Project for the Promotion of Community Learning Process (東北部)

目的:

1. PO におけるマネジメント技術を高める
2. 統合農業 (複合農業) を通して環境の回復を促進する。
3. コミュニティの参加的役割を促進する。

活動:

1. 統合農業 (複合農業)
2. 女性織物グループ
3. 精米と貿易活動

393. Rural Friends Association (東北部)

目的:

1. 農村の人々の生活の質の向上のための問題解決能力を高める
2. 土地を持たない, もしくはほとんど持たない農家が自身を開発するための機会を得る支援をする
3. 政府と私的機関の調整, 協力

活動:

1. 女性の貯金グループ
2. 統合農業 (複合農業)

397. World Vision Foundation of Thailand (東北部)

目的:

地方の組織, グループへの配給や援助を行うスポンサーを招待することと同様に, 最良の資源の利用を通しての貧困問題の解決と必需品の提供

活動:

1. 副業の促進
2. 子どもと女性の開発を目的としたプロジェクトの運営

403. Local Area Development Support Project (LADSP) (東北部)

目的：

1. 農家の生活の質の持続的発展
2. 開発のための地方の資源を利用する農家の能力開発

活動：

1. PO とコミュニティリーダーの強化
2. 女性の職業の促進
3. 貯金グループとコミュニティ基金の設立
4. オルタナティブ農業の促進

452. Project for Women Industrial Labor (南部)

目的：

1. NGO とコミュニティリーダーに (女性の) 労働者の状況を理解させ、彼らの問題の解決を模索する
2. (女性の) 労働者が彼らの権利について理解する支援

活動：

1. 産業セクターにおける女性の労働環境に関する研究を実行する。
2. 女性の問題の解決に関するトレーニングセッションやセミナーの組織化

以上のほかにも、ダイレクトリーには掲載されていないものとして、タイ北部家内職業従事者ネットワーク (Northern Thailand Home Base Worker Network) がある (中須 2003)。

この団体は 1992 年に設立され、NGO、GO の協力のもとにタイ北部の家庭内労働の現状を改善する活動を実践している。活動の焦点は、マネジメント、生産過程、潜在マーケットの開発としている。46 グループからなり、衣類、アンティーク製品、カービング、食料保存など全体で 2104 人のメンバーがいる。

活動戦略として、次の 5 点を挙げている。それは、1) 参加 2) ジェンダーの平等 3) 環境意識 4) 協力 5) パートナースhip、である。ターゲット地域は、北部タイのチェンマイ、チェンライ、パヤオ、ナン、ランパン、ランブーン、メーホンソン、パラエであり、活動の目的は、1) マーケティング管理の開発、2) 情報と経験の交換を促進するメンバー間協力の支援、3) ネットワークのメンバーたちが抱える問題を解決支援するための外部機関との協力、としている。

第 4 章 今後の課題

以上、「女性 NGO」の多くが、収入労働を射程に入れた活動をしていたが、「持続可能な開発」に直接的に関与している団体は、タイ北部および東北部に多いことが明らかとなった。ちなみにバンコクにおいては Association for the Promotion of the Status of Women と Gender and Development Research Institute, Association for the Promotion of the Status of Women くらいであったが、とりわけ後者は、いわゆる GAD を直接的に標榜しているゆえに、今後その詳細について調査する価値があるものと思われる。

「ジェンダーと持続可能な開発」に直接的に関与する団体が多いことが明らかとなったタイ北部および東北部では、たとえば、Project for Women and Youth in Chiang Mai や Lamphun

Women and Youth Development が農村開発と環境配慮に関するトレーニングを実施しており、Thai-Worldview Foundation が環境や開発に関する活動を、Association for Community and Ecology Development (ACED) が「持続可能な開発」と女性や子どもへの支援の双方を対象とした活動を、Highland People's Education and Development Foundation と Project for Hilltribe Women and Youth Network が山岳民族に限定しながらも女性と開発に関わった活動を、Community Forest Project, Lampang Province は森林に関連しながらも、環境保護における女性の役割を強めることを目的としていた。今後はこれらの活動の詳細について、フィールドワークによって明らかにする必要がある。

本研究では、「持続可能な開発とジェンダー」の問題について、タイを事例に、現在入手可能な文献によって「女性 NGO」の概要を明らかにした。今後の課題は、「環境 NGO」の全体像を明らかにしたうえで、「持続可能な開発とジェンダー」に関する好事例となるものを抽出し、フィールドワーク等の実地調査を行うことである。

〈引用文献〉

- ブライドッチ R., チェルキエヴィッチ E. ほか／壽福眞美監訳『グローバル・フェミニズムー女性・環境・持続可能な開発ー』青木書店, 1999 年, 326
- 江藤双恵「タイ農村女性の労働意欲」(田中由美子・大沢真理・伊藤るり『開発とジェンダー』国際協力出版会, 2002 年, 192-196
- 古田睦美「アンペイド・ワーク論の課題と可能性」川崎賢子・中村陽一編『アンペイド・ワークとは何か』藤原書店, 2000 年
- 松葉口玲子「WID, GAD から『ジェンダー・環境・開発』へ」『女性労働研究』ドメス出版, 1998 年
- ミース, M., ヴェールホフ, C・V, ほか／古田睦美・善本裕子訳『世界システムと女性』藤原書店, 1995 年
- 望月康恵ほか「ジェンダー主流化における NGO の役割ー東南アジアを中心に」『アジア女性研究』第 12 号, (財) アジア女性交流・研究フォーラム, 2003 年
- 中須正「タイにおける環境 NGO の社会的役割に関する実証的調査研究」『松下国際財団研究助成最終報告書』2003 年
- 中田好美『タイ北部における女性支援活動ーマイクロ・クレジットを事例として』森基金報告書, 1998 年
- 鳥飼行博『社会開発と環境保全』東海大学出版会, 2002 年
- Wipaphan Korkeatkachorn & Suntaree Kiatiprajak (Eds.), Directory of Non-Governmental Organizations 1997, Thai Development Support Committee (TDSC), Bangkok, 1997